

平成 31 年 1 月

## 魚津市定例記者会見



日時：平成 31 年 1 月 4 日（金） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社

NHK、KNB、NICE TV

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長  
企画政策課長

### 1. 新年あいさつ

- ・あけましておめでとうございます。昨年中は、魚津のことを色々取り上げていただきましてありがとうございました。この新しい年も積極的に情報の発進に努めてまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

### 2. 市長からの発表事項

#### (1) 黒部市と連携した移住定住促進事業について

- ・黒部市と連携し、移住者の受入れ促進や、定住者の満足度向上を目的に 3 つの事業を行う。

今回は「黒部市と連携した移住定住促進事業」となっているが、今年度の初めから「新川 2 市 2 町広域」の取組として、このようなことが出来ないかという相談を進めてきていた。例えば昨年 10 月には朝日町と一緒に合同の移住フェアなどを行っている。更に、2 月には、移住交流フェアに朝日町と共同で出展を計画・調整中である。

新年度には新川 2 市 2 町広域の取組として、このような展開を行っていかねばと考えている。修学旅行を含めて、民泊や体験ツアーの需要・ニーズは都会の方から結構ある。しかし、1 地域だけでは受けきれないという意見がある。首長が集まる機会にそういったことを話しするなかで、まずは出来るところから行っていこうということから、このような形の取組を進めているとご理解いただきたい。（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

#### (2) 平成 31 年 4 月に開校する星の杜小学校（住吉・上中島・松倉統合校）の校歌が完成しました

- ・星の杜小学校の校歌については、昨年から、作詞・作曲をどなたにさせていただくかを地元の統合準備会で検討されてきた。このたび、作詞は吉田朋美さん、作曲は高原兄さん、この二人による合作ということで、星の杜小学校の校歌を作っていただいた。9 月から制作に取り組んでいただき、本日 1 月 4 日から魚津市ホ

ームページにて、音源の公開をすることにした。今後は、各小学校にて校歌の練習をし、2月には3校合同の練習会を行い、4月の開校にむけて準備をしていく予定となっている。

校歌の作者である吉田さん、高原さん、お二人はそれぞれ、新しい校舎や統合される松倉、上中島、住吉のそれぞれの地域をまわられたとのこと。それぞれの地域の自然景観と新しい校舎のイメージが「星の杜」というネーミングにピッタリだと感じられたとの話を聞いている。そのため歌詞のなかに「星の杜小学校」というフレーズが繰り返し入ってくる歌詞になっている。明るくてさわやかなメロディで歌いやすく、子どもたちも気に入ってくれるのではないかと感じている。(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

## 2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

### 〈教育長〉

- ・平成31年魚津市武道合同稽古始め
- ・市内小中学校3学期始業式
- ・平成31年魚津市成人式(398名 男220人・女178人)
- ・第13回桃山雪まつり
- ・児童と生産者との交流会食(松倉小学校)

### 〈企画総務部長〉

- ・平成31年新年賀詞交歓会
- ・平成31年消防出初式(新川文化ホール、魚津市役所周辺ほか)
- ・海上出初式及び冬季海難救助訓練(魚津港南区)

### 〈民生部長〉

- ・新成人による交通安全署名
- ・親子でリズム♪リトミック
- ・健康づくりイベント  
「簡単“ながら”体操」「教えて山上ドクター！メタボと糖尿病」
- ・第15回もちつき交流会
- ・男の料理教室 健康づくりは幸せづくり「目にも鮮やか！野菜のある中華料理」

### 〈産業建設部長〉

- ・平成31年魚津市航海安全・大漁祈願祭(魚津漁業協同組合 本所)
- ・魚津かのにの陣の開催について

### 3. 質疑応答の内容

#### 「星の杜小学校の校歌について」

##### 《記者からの質問》

校歌の作者はお二人とも、プロの作詞家、作曲家の方か。

##### 《回答》（市長）

お二人ともプロとして活動している。

##### 《回答》（教育長）

経過として、統合準備会で要望があったのは、住吉小はYKK起業者（吉田家）の出身小学校であり、地域はそれを誇りにしており、何か吉田家に係りのある方が校歌に携わっていただければありがたいという声があった。そこで吉田朋美さんをお願いしたところ、作詞も作曲もというわけにはいかないので高原さんと一緒にというお話になったということである。最初からプロの方に依頼しようということではなかった。たまたまそのようになったということである。

##### 《記者からの質問》

吉田さんというのは吉田家とどういう関わりがあるのか。

##### 《回答》（教育長）

昨年、取締役になられました吉田忠裕さんのお嬢さんであり、起業者のお孫さんである。

##### 《記者からの質問》

先ほど聞かせていただいた校歌を歌っていたのが吉田さんか。

##### 《回答》（教育長）

そのとおりである。伴奏は高原さんである。ホームページには既にアップしてある。吉田さんは富山県で様々な活動をしている。

##### 《記者からの質問》

住吉小学校の出身となるとお爺さんになるのか。YKK創業者が住吉の出身で、そのお孫さんが吉田朋美さんということによいか。

##### 《回答》（教育長）

そのとおりである。

##### 《記者からの質問》

吉田朋美さんご自身は住吉小学校出身なのか。

##### 《回答》（教育長）

住吉小学校出身ではない。

##### 《記者からの質問》

吉田朋美さんのご紹介で、作曲者として高原さんをご紹介いただいたということか。

《回答》（教育長）

この吉田朋美さんと高原兄さんはいろんな場面での作詞・作曲、歌手と作曲者としてのコンビで活動されている。例えば、北陸新幹線の黒部宇奈月温泉駅の発着メロディや、いろいろなCMなどでも一緒に活躍しておられるので、吉田さんにご依頼するのであれば作曲者は高原さんでということは、地元のみなさんの思いとしてはあったのではと思う。実際に吉田さんにご依頼したところ、高原さんに相談してという流れになった。

《記者からの質問》

普通、小学校の校歌では歌詞は3番までであるのでは。

《回答》（教育長）

歌詞は、1番のみのものも、2番、3番のものもある。それぞれである。

《記者からの質問》

統合準備会というのは3校区の代表者が集まったものか。

《回答》（教育長）

そのとおりである。

《記者からの質問》

流れとして 地元統合準備会とすれば、吉田家ゆかりで、もちろん音楽活動もされている吉田朋美さんに依頼し、黒部宇奈月温泉駅の発着メロディなど共作も多い高原さんが作曲担当したということによいか。

《回答》（教育長）

そのとおりである。

《記者からの質問》

作者お二人は、各校区の景色や新しい校舎も見てこの校歌を作られたが、市長はこの校歌についてどういった感想をお持ちになれたか。

《回答》（市長）

よく校歌である地名とかはあまりでてこないが、新しく生まれた学校が未来にむけて成長していくというメッセージ性は感じられる歌詞だと思った。

《記者からの質問》

それはどのあたりの歌詞からそのように感じたのか。

《回答》（市長）

1番の歌詞では「紡いだ命 今ここに」そして「手を繋ぎ 微笑んで 光の環を広げよう」、2番の歌詞では「私たちを映し出した未来」というものを、自然の姿に重ねて表していらっしゃるのかなと思った。

《記者からの質問》

歌詞やメロディについて、このような言葉をいれてほしい等、キーワードなどで、オーダーしたものはあるか。

《回答》（教育長）

特にそれはない。ただ3校の校歌やパンフレットなどの資料は事前にお渡しした。

その上で校区をまわられて感じられたことを校歌にされたとお聞きしている。

#### 「かきの陣」について

##### 《記者からの質問》

昨年は何時くらいに売り切れたのか。

##### 《回答》（市長）

売り切れ時間は、それぞれ商品によって時間は違うが、去年は午前 11 時すぎにはすべて売り切れていた。

#### 「2市2町連携での移住定住促進事業」について

##### 《記者からの質問》

移住定住促進事業について、2市2町で連携して行っていくとの話であったが、移住・定住という、ある意味、自治体間競争もありがちな世界であるが、何ゆえ皆さん共同で行っていこうという話になっているのか。

##### 《回答》（市長）

ひとつの団体では、訴求力がなかなかないというジレンマがある。しかも、移住者というのは、ピンポイントで選んでくる場合はよいが、やはり自分の理想や想いがあるので、いくつもまわってみたい等のオーダーがある。したがって、ニーズの面から広い候補地を知りたいということもあるし、事業を実施する我々側からしてもアピールするときの効果や、共同で行ったほうが効率的な予算でできるということも現実としてあるので、そのような両方の面からやっていこうということになっている。一口で新川といってもそれぞれ特色も違うので、それぞれの特色を活かしてアピールできればと考えて、いまこのようなことを行っている。観光についても似た様な面がある。

##### 《記者からの質問》

年末の黒部市長の会見では、2市2町については、いまそこまでは視野に入っていないとのことであったが、完全に視野に入っているとのことであれば整合性がとれないが。

##### 《回答》（市長）

具体的なプランにはなっていないという意味では、そのとおりでないかと思う。気持ちとしては、先ほど言ったように2市2町のエリアで、そのような取組をやっていければということである。事務的にはそういったレベルの相談をずっと行っている。

#### 「黒部市と連携した移住定住促進事業」について

##### 《記者からの質問》

雪道ドライビング講習会等、参加者は費用はいるのか。

##### 《回答》（市長）

ドライビング講習会は無料、くろべ・うおづ暮らし体験会は参加者費用が発生する。まだ確定はしていないが6千円程度で試算している。それぞれ、黒部市、魚津市の窓口で申込みができる。

## 「2市2町連携での移住定住促進事業」

### 《記者からの質問》

今振り返れば、台湾旅行博などにも2市2町の首長が一緒に出ておられた。例えば、県西部には中核都市圏など国の制度のプラットフォームのなかで一緒にやろうと連携の制度ある。ただ新川にはない。首長に連携の意識のようなものはあるのか。なにか打ち出す枠はないのかを求めているのか。我々報道陣には唐突感がある。どうして最近このようなことが出始めているのか。

### 《回答》（市長）

私自身としては、特段、唐突感はない。そもそも制度を利用したくても、国の制度にあうような中核都市がない。みんな似たような規模であり、なかなかそのフレームが利用できない現実がある。しかしながら、個別の市で観光や人を呼び込んでくる取組をするのはどうしても限界があるという話は、2年前くらいからずっとしており、何かできないかと考えていた。観光そのものは広域観光の協議会があるのでそのようなものを利用して観光キャンペーンを行っているが、移住定住事業のような人口対策の事業は、先ほどもご質問があったように、本来的にはこちらが増えれば、むこうが少なくなるという面もありなかなかやり難かったが、実際に都市部からの問合せ、オーダーでは、「他にないの」といわれることが結構ある。同じ宣伝・PRを打つにしても、バラバラで行うよりは連携をしてやっていくほうが効果的と思われる。仮にその結果選ばれるのが魚津市でなくても、中には魚津市を選ぶ人もいる。そういう取組はやはり協力してやっていくべきでないかという意見が強くなってきたということだと思っている。

### 《記者からの質問》

正直そのフレームがやりにくいということは実感的にないか。

### 《回答》（市長）

それはある。そのような制度ができればとは思っている。